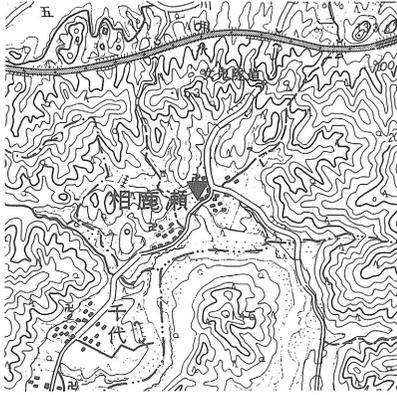


三重・内垣外遺跡 うちがいとう

- 1 所在地 三重県多気郡多気町相鹿瀬字内垣外
- 2 調査期間 一九九六年(平8) 一月～一九九七年三月
- 3 発掘機関 三重県埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 西出 孝・山田康博・前川明男
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 下層 旧石器時代
上層 縄文時代、室町時代、江戸時代末期



(伊勢)

内垣外遺跡は、三重県中部を流れる宮川の中流域左岸の段丘中位面に立地し、標高は約四八mである。今回紹介する木簡は、室町時代の掘立柱建物・墓・井戸や、江戸時代の井戸・土坑・溝などが主となる上層の調査中に、井戸の底部から一点だけ出土したものである。井戸は計四基検出されているが、木

簡が出土した井戸からは土器がほとんど出土せず、使用時期は不明である。他には井戸廃棄時に用いた、井戸内部の「息抜き」と現地で呼ばれる竹筒が、突き刺さった状態で出土している。

8 木簡の積文・内容

(1) ・「<<<蘇民将来子徒也」

・「>>>」 ☆

226×36×6 032

檜板製の蘇民将来札である。下部に若干の欠損箇所と割れが認められるが、ほぼ原形を留めている。裏面下部にセーマンが記されている。

9 関係文献

三重県埋蔵文化財センター「内垣外遺跡発掘調査報告」(一九九七年)
(西出 孝)

